馬　陵　城　頭　月　冴　え　て [※1]

高理第４回卒　斎 藤　恵 子 [※2]

昭和 47 年、理数科ができて３年目の春に私を含めて４人の女子生徒が相馬高校に入学した。理数科の女子はまだ正式な制服もなく、３年生に１人、２年生に２人という少人数だった。当時は学園紛争を実際に目の当たりにした先輩はすでに卒業していて、私たちの学年が、後に新人類などと呼ばれる世代の、最初の年代にあたる。歴史を背負わず、理想も持っていないと、事あるごとに先輩たちから非難される世代だ。

しかし、相馬高校の伝統そのものは当時の私たちにも大きな影響を与えていた。まず何と言っても、生徒総会の時のやり取りは、華々しくもあり、騒々しくもあり、生徒が生徒会を作っているという雰囲気が、今の時代よりもずっと強かった。私が入っていた吹奏楽部は、同好会から部に昇格して確か２年目で、楽器の数はまだまだ不足していた。だから、生徒会予算の獲得では、勢い真剣にならざるを得ない。何とか考慮して予算を組んでもらうのだが、そうなると、もちろん他の部からの攻撃が来る。初代吹奏楽部長の半谷 [※3] 先輩が、背筋をぴんと伸ばし顔を紅潮させて楽器の値段を報告し、自前の楽器で何とかしのいでいる苦しい状況を何度も訴え、何とか予算通りの金額を認めてもらったりした。

また、これは現在も同じだと思うが、１年生の応援練習時の怖さといったら、特別なものだった。応援団の先輩たちは、蛮カラ風の制帽、学生服に下駄履きで、手には竹刀を持っている。校歌、応援歌、敗戦歌を仕込まれながら、声が小さいとか、列が乱れているとかの怒声が飛ぶたびに、いつ手中にある竹刀でしごかれるかとびくびくし、本気で声を出して歌ったものだった。そんな中で、ごく普通の学生服に清潔な真っ白いカラーをつけた応援団先輩がそばを通る度に、何だか救われるようなすがりたいような気持ちになった。つまり、それくらい応援練習は新入生にとっては恐ろしかったということだ。

しかし、現在、「馬陵城頭月冴えて……」と自然と口をついて歌が出てくる時、心の中に広がるのは、高校３年間で培われた相馬高校的叙情性としか言いようのない切ない情緒だ。その情緒は、先生方や先輩たちから語られた「質実剛健」という言葉にも負っている。古いけれども形の美しさと採光の良さを十分に自慢できるモダンな校舎、学に志し一生懸命に勉強して大学に入った諸先輩のこと、社会で貢献されている先輩方の話を聞くたびに、締めくくりは「質実剛健」であった。どちらかと言えば男性的な響きの言葉ではあるが、その言葉の持つ美しさに感動し、学校創立 70 余年の重さに陶酔も感じた。

授業では、どの教科にも個性的な先生方が大勢いて、私個人はあまりよい生徒ではなかったけれど、心に残る授業や人柄の話では枚挙に暇がない。「うわさによりますと」で始まる森 [※4] 先生の地学、電気ショック実験の伊東 [※5] 先生の物理、丸い眼鏡の桃井 [※6] 先生の生物。数学では、微

分積分の世界に妙に感動した記憶がある。津軽出身の原 (※7) 先生の世界史、課外の予習をしていないとよく叱られた田代 (※8) 先生の日本史。そして何より大きな影響を受けたのは３年間担任だった古典の大迫徳行 (※9) 先生だった。大迫先生が感動を込めて何度も話してくださる『源氏物語』、相馬藩の危機を救った二宮尊徳の話、相馬地方に残存する京言葉、折口信夫氏や民俗学の話など、たくさんのことを話して頂いた。おかげで、民俗学や当時流行だった比較文化論、心理学などの新書をずいぶん読むことになった。大学入学後、後に福島県立美術館の初代館長になられた高橋富雄先生の東北地方の講義に、大迫先生から教えて頂いた内容と重なるところが多くあり、胸を張って講義を聴いたりした。

授業、部活動、部活動の後には勤労青少年会館でバドミントンもした相馬高校での３年間は深くゆったりと流れた。そこでは、「質実剛健」「文武両道」を基調としながら、さまざまな方向に興味の触手を伸ばすことができた。そして、充実した高校生活を懐かしく思い出す時、恩師への感謝の気持ちで一杯になる。

（※１）「相中相高百年史」1998（平成10）年７月６日発行、「思い出の記」より。

（※２） 旧姓：加藤。昭和50（1975）年卒、中村出身。

（※３） 半谷芳文：高理第３回、昭和49（1974）年卒、中村出身。

（※４） 森　福幸：相中第41回、昭和18（1943）年卒、八幡出身。相高教諭：昭和33～49年。

（※５） 伊東悠紀男：相高第３回、昭和26（1951）年卒、八幡出身。相高教諭：昭和47～59年。

（※６） 桃井一郎：相中第43回、昭和20（1945）年卒、中村出身。相高教諭：昭和44～62年。

（※７） 原　　洋：相中第42回、昭和19（1944）年卒、中村出身。相高教諭：昭和42～53年。

（※８） 田代俊樹：相高普第12回、昭和35（1960）年卒、中村出身。相高教諭：昭和49～62年。

（※９） 相高普第６回、昭和29（1954）年卒、大野出身。相高教諭：昭和43～54年。

（ 転記＆※脚注　村山 ）